民生産業常任委員会研修視察報告書

1. 実施日 令和元年10月16日(水)～10月18日(金)
2. 参加者
委員長	都丸 裕史
副委員長	中尾 大助
委員	青木 満
委員	塚田 義一
委員	堀越 幸広
委員	川島 広
委員	佐藤 久芳
事務局	糸田 京子
3. 視察地
- 静岡県掛川市
静岡県富士宮市
神奈川県綾瀬市
神奈川県葉山町
4. 交通機関 貸切バス
5. 視察結果 別紙のとおり

◎視 察 地:静岡県掛川市

◎視察内容:子どもの貧困対策について

【市の概要】

面 積：265.69km²

人 口：117,978人（令和元年8月1日現在）

人口密度：444人/km²

静岡県西部に位置し、静岡県の二大都市静岡市と浜松市の中間に位置している。市中央部に、JR東海道新幹線、JR東海道本線、東名高速道路、国道1号が横断するとともに、市南部には国道150号が横断している。

遠州灘に面し、温暖な気候と生活しやすい地形に恵まれていることから、縄文時代にはすでに集落が営まれ、5世紀前後になると大規模な古墳群が築造されるなど、早くから組織化された社会が形成されていたことがわかっている。

自然と深い関わりの中で、先人たちは、お茶や葛をはじめさまざまな地場産業を培ってきた。掛川には、お茶やいちご、バラ、葛布、郷土銘菓など掛川ならではの特産品が数多くある。また、製造品出荷額は1兆円を超える県内屈指の商工業都市として成長を続けている。

平成17年4月に旧掛川市、旧大東町、旧大須賀町の1市2町が合併し、豊かな自然と優れた伝統・文化を兼ね備えた、新「掛川市」が誕生した。

【背景】

平成28年の国民生活基礎調査（厚生労働省）によると、「子どもの貧困率」（平成27年時点）は13.9%と、貧困状態にある子どもは約7人に1人となっている。そんな中で国では平成26年に「子供の貧困対策に関する大綱」を、静岡県では平成28年に「静岡県子どもの貧困対策計画」が策定された。国の大綱、県の計画に基づき掛川市では生まれ育った環境によって左右されることのないよう、また、貧困が世代を超えて連鎖することのないように早急に対策を講じることとなった。

【事業内容】

- ・掛川市子どもの貧困対策計画の策定（平成30年度～令和4年度までの5カ年計画）
- ・お子さんの生活に関するアンケート調査
調査対象：掛川市内の小学5年生、中学2年生とその保護者
調査方法：学校配布・学校回収
調査期間：平成29年9月29日～平成29年10月13日
配布数：2,150人

- ・掛川市子どもの貧困早期発見対応ガイドの作成

配布対象：園や学校など関係機関

配布数　： 3,500部

【まとめ】

現代の日本において子どもの貧困については約7人に1人という調査結果が出されている状況下で子どもの貧困問題は重大かつ日本の将来においても早急に取り組まなければならない問題である。掛川市では平成30年度に「子どもの貧困対策計画」を策定し、関係機関や企業、地域を巻き込んで子どもの貧困対策や背景にある保護者の経済的、生活不安を払拭するための施策を多く実施していた。特に保護者の経済的支援や就労支援については手厚く行っており大変参考になった。本町においても様々な取組を実施しているが、地域やボランティア団体がより広く活動できるような支援が必要であると考えます。

◎視 察 地:静岡県富士宮市

◎視察内容:包括的相談支援体制の構築、認知症施策について

【市の概要】

面 積: 389.08km²

人 口: 132,404人 (令和元年9月1日現在)

人 口 密 度: 340人/km²

富士山の西南麓に位置し、富士山を御神体として平安初期に造営された富士山本宮浅間大社の門前町として発展してきたまち。富士山をはじめ、広大な森林、高原、豊富な湧水等の恵まれた自然環境に育まれて生産されるおいしく、特色のある、多様な食材がある。この優れた食資源を活かし、地域の産業振興と市民の健康・幸せづくりを目指そうと「フードバレー構想」を掲げて、食を中心としたまちづくりを進めてきた。

市の総合計画における、将来都市像「富士山の恵みを活かした元気に輝く国際文化都市」実現のための諸施策の実施に当たっては、総合的、横断的に推進するとともに、民・産・学・官がそれぞれの役割を分担しながら、協働して取り組んでいる。

今日では、ご当地グルメの代表格となった富士宮やきそばや、豊富な地元食材を活かした「食のまちづくり」を推進するとともに、世界遺産「富士山」を中心としたまちづくりを進めている。

【目的】

- ・高齢者も障がい者も子どもも、「誰もが」「住み慣れた地域の中で」「尊厳を保ち」「幸せに・健やかに」「安心・安全」な日常生活を営むことができる「まち」を目指す。
- ・民・産・学・官それぞれの分野において自助・互助・共助・公助の力を取り戻し、力を発揮させる。

【事業内容】

- ・民の取り組み・・・個別課題の解決、地域課題の発見、地域づくり・資源開発を目的とした地区社協、市社協、市の担当課、介護保険従事者、地域包括支援センターで構成する連携会議の実施。市内120箇所地域も性別も住んでいるところも関係なく参加できる地域寄り合い処を設置。
- ・産の取り組み・・・地域にある事業所と市が協定を結び、地域で何らかの異変を感じたときに地域包括支援センターや警察に連絡することを目的とする地域見守り安心事業の実施。
- ・学の取り組み・・・市内小中学校、高校で福祉教育の実施
- ・官の取り組み・・・市役所の新採用職員に対して認知症サポーター養成講座の実施。富士宮市の地域福祉ネットワークの概要や認知症の特性を警察と学び、警察

と行政の連携を強化する。

【まとめ】

現在日本の人口の約28%が65歳以上の高齢者であり急速に進む高齢化、人口減少だが、それに伴い福祉や相談体制の充実を図ることは急務である。富士宮市ではまず、福祉関係部署の機構改革を進めていた。本来福祉とは必要な人が迅速かつわかりやすく利用できるなければならないものだが、実は各種福祉サービスの申請や相談窓口は複雑かつ多岐に渡るものであり非常にわかりづらいものである。そこをまずわかりやすくさらに専門的にするために各部署を再編し、縦割り行政をなくし、横の連携を強化することで気軽に相談、利用しやすい体制にしたことは参考になった。また、行政だけではなく民間の力も活用し、生活支援体制を整備している、民・産・学・官が密に連携し一人ひとりが役割をもてるオール富士宮体制を構築しているところも参考になった。行政による支援サービスの充実を図ると共に行政は各主体で行っている支援を繋げる役割を果たすことにより、住み慣れた地域で安心して暮らせる町になると考える。

◎視 察 地:神奈川県綾瀬市

◎視察内容:道路破損等通報アプリについて

【市の概要】

面 積：22.14km²

人 口：84,371人（令和元年9月1日現在）

人口密度：3,810人/km²

神奈川県ほぼ真ん中に位置し、横浜へは約20km、東京中心部へは約40kmの首都圏にある。西に大山・丹沢連峰を望むとともに、遠く富士の秀峰を仰ぎ、カワセミやアユ、ホテルが見られ、都心部からさほど離れていない土地でありながら、市の中心地には広大な畑が広がる自然豊かなまち。

高い技術力やノウハウを持つ製造業事業所が集積する「ものづくりのまち」であるとともに、ここ数年、映画やドラマなどの舞台として、市役所や市内で数多くの作品が撮影されており、「ロケのまち」として脚光を浴びている。

また、長い歴史もあるまちで、吉岡遺跡群からは、今から約4万年前の人々が使った石器が発見されている。これは現在のところ、関東地方で最古級の石器と言われている。このほかにも、全国から注目される遺跡がいくつかあり、その一つが弥生時代の環濠集落である吉岡の神崎遺跡である。日本の歴史を考える上で特に重要な史跡として評価され、平成23年2月に市内で初めての国指定史跡となった。

平成30年11月に市制施行40周年を迎え、「自然と優しさあふれる街 綾瀬」をキャッチフレーズに次の50周年という大きな節目に向けて歩み出した。

【目的】

道路の破損や不具合についての市民からの通報は貴重な情報源になっている。道路破損等通報アプリケーションの導入により通報者の負担を軽減し、より手軽に情報提供をしていただき、道路修繕の効率化と道路破損等への素早い対応により誰もが安全で快適に利用できる道路環境の維持向上を目指すことを目的とする。

【事業内容】

- ・綾瀬市道路破損等通報アプリケーション「あやびいあやパト隊」運用
- ・投稿者が投稿内容と対応状況を確認できるとともに投稿者に直接メールで回答可能
- ・対応方法・結果はメールで回答するほかに、アプリ上で公開
- ・通報は24時間対応可能
- ・通報者がアプリを起動し、道路等の破損情報を撮影、位置確認して通報
- ・登録対象者は市内在住、在勤、在学者

【まとめ】

本町は県下で1番面積の小さい町だが、町道だけでも全長307kmも張り巡らされており、生活にはなくてはならないインフラである。当然道路の破損や陥没等は常日頃より道路担当部署がパトロールして修繕や予防に努めているところだが限界があるのも事実である。このアプリの登録方法は簡単でありスマートフォン等ができれば誰もが気軽に活用できる。また、通報されたことについてそのまま決裁文書になるということも参考になった。また、防災の面でも活用できる幅は充分にあると感じた。本町においては面積や町民からの情報提供数、また、職員の負担度なども調査し、費用対効果を検証し、導入検討が必要と考える。

◎視 察 地:神奈川県葉山町

◎視察内容:ごみの戸別収集について

【市の概要】

面 積：17.04km²
人 口：33,087人（令和元年8月1日現在）
人口密度：1,941人/km²

三浦半島の西北部に位置し、北は逗子市、東部、南部は横須賀市に接し、西は相模湾に面している。森戸川、下山川がともに西に流れ、相模湾に注いでおり、山々は相模湾を環流する黒潮と年間1,000mmを越す降水により、美しい山ひだと美林におおわれている。

東京から50km圏内に位置しており住宅と観光のまちとして発展している。鉄道網がなく、葉山町への交通はJR横須賀線・逗子駅、京浜急行線・新逗子駅からのバス路線であり、東京駅から約80分、横浜駅から約45分。自動車の場合は、高速道の横浜横須賀道路・逗子インターチェンジまたは横須賀インターチェンジ、一般道は国道16号・134号の利用が便利なルートである。

葉山海岸は、森戸海岸、芝崎、一色海岸、小磯、長者ヶ崎海岸という砂浜と岩礁が交互に連なっている南北4kmにおよぶ美しい海岸線で、平成8年には「日本の渚・百選」に選ばれている。森戸、一色、長者ヶ崎の3つの海水浴場や葉山港などの港湾設備も整備されていて、海水浴や磯遊び、ヨットやボート、ウィンドサーフィンなどのマリンスポーツができる場所として広く親しまれている。

明治22年の町村制実施によって、木古庭、上山口、下山口、一色、堀内、長柄の6か村が合併して葉山村となり、大正14年に町政を施行した。明治中期に御用邸が建設されてからは、「保養の町」として歩み、多くの名士の別荘や居宅が設けられた。

【背景】

葉山町のごみ処理事業も当初はステーション収集が基本であったが、ごみ処理事業費が町民一人あたり年間で2万5千円と高額となっているためごみの減量化と併せて課題となっていた。また、全国的なごみ処理事業の広域化に伴い葉山町も近隣2市との広域化を約10年にわたり協議してきたが大規模な施設建設への危惧や資源保全を重視したごみ処理のあり方を求める町民からの声、広域化に反対する町長の当選もあり、平成20年に広域協議会を脱退し、「ゼロ・ウェイスト」（浪費や無駄、ごみをなくす）への方針転換し戸別収集に踏み切った。

【事業内容】

- ・ごみの戸別収集と資源ステーション設置
- ・各家庭のごみをステーションでなく各家の前に出し収集する。（可燃ごみ、容器包装プラスチック、プラスチックごみを収集）

- ・その他の缶、瓶、紙、金属などは各地域に設置された資源ステーションで収集。

【まとめ】

生活していく上でごみは必ず出るものであり、その処分は必要不可欠である。しかしルールやマナーが必ず問題になる。本町でもごみ分別やごみステーションの管理は常に課題であり、令和3年度には新しいごみ焼却炉が稼働する。そんな中で葉山町はゼロ・ウェイストのまちを目指してまずはごみの減量化とそもそもごみの出ない町を目指そうと10年以上前から取り組まれてきた先進地である。ごみを資源とする徹底した分別細分化、袋での排出は極力止める、必要以上の便利化を止める、自分ごとにしないという基本姿勢のもと住民も協働してごみ処理事業を進めてきた。特に今回の研修テーマである戸別収集についてはごみステーションを廃止して可燃ごみを家の前に置いて収集する方法については持続可能なごみの排出という意味でも大変参考になった。ごみ袋の有料化だけが受益者負担ではなく、ごみを出さない町づくりに協力することも受益者負担であると感じた。